

平成 19 年 10 月 11 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

## 中斎塾 東京フォーラム 第 6 回講話

毎回お聞きする質問を致します。

「先週 1 週間、嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい。」

(・・・半数、手が挙がる)

「では基準を落として、今朝起きてから嘘をついていない方、手を挙げて下さい。」

・・・ほとんどの方に手を挙げて戴きました。

結構難しいですね。

人間の記憶力は不確かですから、昨日一日は何とか思い出してみても、1 週間となると、「はて？」という部分があるでしょうから、ゆっくり考えてみれば皆さんほとんどの方が手を挙げられるのだらうと思います。

ただ記憶が少し不確かになったのだと、解釈させて戴きます。

二つ目の質問です。

私は今月から自分の予定表に<寝る時に、今日は一日満足したか>、それから<明日は楽しみか>と書きました。

では、お聞きします。

「昨晚眠る時に、今日は一日満足したと思いながら眠れた方、どれくらいおられますか？」

(・・・1/3 くらい手が挙がる)

「明日は楽しみだと思って眠られた方、どれくらいおられますか？」

(・・・沢山手が挙がる)

よろしいですね。

もう一つ付け加えます。

私が実行していることですが、何か問題があってそれをどう処理しようか考える時には、<成功してよかった>と思いながら眠りに入ると、寝ている間にバクテリアが一所懸命活躍をしてくれ、翌日からの動きの中に方程式ができていて、無意識の内に思っている事が完成するように動いてくれます。

「あれが出来て良かったな・・・」と成功したイメージを浮かべて眠ると、人生が輝いてくると思います。

これは西洋ではカーネギーやマイヤーが唱えていますし、天風先生の本にも書いてありますので、皆様にお勧め致します。

では、私の好きな言葉に入ります。

「うそをつかない」は、「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉に直結致します。最近の世の中を見ておきますと、「利によりて行なえば、怨み多し」が、諸に出ていると感じます。

先日、北の湖理事長がテレビの記者会見で「自主的判断で、給料の 50%カットをしました。理事全員は 30%カットしました。」とっていました。

何と情けない会見をするものかと思いました。

「利によりて行なえば、怨み多し」の典型的なものです。

北の湖理事長が辞表を出し、理事も全員降りて、新しい理事を選んで「相撲を愛する国民の御意見を伺って、相撲協会は一から出直します。新しい相撲協会を作りたいと思います・・・」と会見したなら、暖かい声も出てくるのではないのでしょうか。

今のところは、理事長を辞めたくないという保身の考えばかりが記者会見で強調されていたように感じます。

顔つきを見たら、どんどん悪い顔つきになっていました。

特定の政治家の顔つきに似てきたと感じました。

皆さんにお聞きしますが、今回の北の湖理事長の判断・行動は、合格でしょうか？

(誰も、手を挙げない)

・・・一人もいませんね。

「利によりて行なえば、怨み多し」は、回りを見回してみるといくらでもあります。

ところが自分自身のことになると難しい。

自分自身の出処進退については、大概、目が曇ることになります。

自分の親族に関することについても同じです。

自分の出処進退は、常に氣を付けていないと間違ってしまいます。

自分の理性がしっかりしていれば良いのですが、年をとると理性的に判断・行動が出来なくなってしまう事を予見していれば、自分の回りに、「呆けてきたぞ」と教えてくれるような友人がいれば良いですね。

先日、会員の山川さんから京都での講演を依頼されて伺いました。

60名の方が集っておられました。

<知識・見識・胆識>について話しを致しました。

知識は、どれくらいのことを知っているか。

過去・現在・未来で知識を見てくださいとお話ししました。

具体的には、過去については60年周期で振り返ってみるとよい。

60年前の日本がどうであったかを調べて下さい。

現在は、現時点のありとあらゆるものを興味を持って取り込むとよい。

その中で、自分の心の中にぴたっと収まるものが出てくるはずです。

未来は、未来について書かれているものや話を意識的に取り込んでいくとよい。

例えば、前から申し上げているように、日本の国債はもう危機的ラインに到達していません。

2004年に国会で当時の柳澤金融大臣がネバダレポートというものを発表しています。

日本が経済破綻を起こした時に、IMFが進駐してどういう始末をするかが書かれています。

国会でそういうものが発表されているにもかかわらず、何故マスコミ等は伝えないのか。

是非調べてみて、自分自身の今後の動きにつなげて欲しい・・・という事を申しました。

見識については、もしとんでもない事態が起きた時には、どういう行動をとればよいか。

そういう時には大概、頭が真っ白になってしまうものです。

その時に自分が信じている信念や哲学・理念といったものが、ポンと浮かぶようになると良いと思います。

浮かばない場合は、本日素読をした論語の中からでも結構ですから、自分の気に入ったものを頭の中に入れておくと良いでしょう。

パニックになった時に自然と出てきます。

これが「学ぶ」ことの最大の益だと思えます。

人間、いつでも冷静でいられるという事はありません。

例えば「利によりて行なえば、怨み多し」でも結構です。

とっさの時に、何か一つでも思い浮かぶようにして戴きたいと思えます。

では、本日の<心に残る言葉>に参ります。

本日は山田方谷『理財論』をご紹介します。

**「それ善く天下の事を制する者は事の外に立ちて事の内に屈せず。而るにいまの理財者は悉く財の内に屈す。」**

「事の外に立ちて事の内に屈せず」という言葉も、とっさの時に頭に浮かぶとよろしいと思います。

何か問題が起きて、渦の中に巻き込まれた時に、気持ちだけ少し外に出る。

そうすると客観的にものが見られます。

山田方谷『理財論』について、ご存知ない方もおられますので少し説明致します。

山田方谷は備中松山藩（岡山県）で、江戸時代末期から明治維新にかけて活躍をした方です。

財政再建の神様でした。

備中松山藩は公称 5 万石、今のお金に直すと、約年収 20 億円くらいの藩です。

山田方谷は藩校の校長先生でしたが、教え子の板倉勝静が藩主に就任し、請われて大蔵大臣を引き受けました。

しかし、年収 20 億の松山藩は、借金がその 5 倍の 100 億円ありました。

そして財政改革に当たったわけです。

まず、領民の信頼を得る為に、自宅へ第三者に入って貰い自分の家計を公開しました。

情報公開をして、信頼を得る。

次にした事は、借金の棚上げをしました。

100 億円の借金の借主は、主に豪商でした。

特に大阪にあった蔵屋敷（支社のようなものです）は、べらぼうな赤字を出していて、その商人からお金を借りていましたから、担保に米を取られていました。

それを長期返済に切り替えて貰い、更に担保として入れてあった米を全部返して貰いました。

そのお米を松山藩に運んで、義倉所を至る所に立てて米を蓄えました。

当時は飢饉がごく当たり前でしたから、飢饉の時にはお米を配るという宣言をして、領民に安心感を持たせました。

又、河川の底さらいをして、舟が通れるような公共事業を興して、領民に仕事を与え、現金収入が得られるようにしました。

武士には土地を与え、自分で開墾させて収穫を得られるようにしました。

こうやって領内が活気づいてきたわけです。

公共事業が一段落する頃には、物産品のブランド化を図って、外へ売り始めました。

鉱山を直営し、砂鉄が取れましたから、鋤や鍬の鉄製品を作って、それを船に乗せて江戸に直接売りに行きました。

以上のような徹底した「入るを図りて、出づるを制する」という手法で、20億の売上げで100億円の借金があった松山藩を、8年間で100億の借金を返済し、更に100億円の蓄財をしました。

山田方谷が、財政再建の神様と言われるのはそのためです。

山田方谷は上杉鷹山と比較されますが、上杉鷹山は100億円くらいの借金を100年かけて返済しましたから、方谷は横綱、鷹山は前頭といったところでしょうか。

今の日本の国の総理大臣以下が似たようなことをすれば、どんどん財政は良くなると思います。

山田方谷の財政再建のおおもとになっている『理財論』は、若い頃に書かれたものです。

『西郷南洲遺訓』の中にも、ほぼ同じような内容の部分があります。

今の世の中、今の官吏はけしからん。国が破綻をする時には、税金をありとあらゆる所にかけてまわって、国民から巻き上げる。それが続いていくと国家は疲弊し、破綻し、一番わりを食うのは国民である。

・・・という事が『理財論』に書いてあります。

そして、その処方箋も書いてあります。

山田方谷は若い時に書いたこの『理財論』という論文を、後年に実践してみせたわけです。

私を書きました『財政破綻を救う 山田方谷「理財論」』（小学館文庫）は非常に分かりやすく書いたつもりです。

ですからどうぞ、さらっとお読み戴ければ有難いと思います。

山田方谷についてももう少し付け加えます。

山田方谷は財政改革だけでなく、他にも色々なことをしています。

日本の洋式軍隊を最初に作りました。

里正隊といって、明治維新の奇兵隊のモデルになったと言われます。

又、松山藩が財政再建に成功したことで、藩主の板倉勝静は徳川幕府の老中に引き抜かれましたから、山田方谷も江戸幕府のいわゆる最高顧問のような地位になりました。

ただ自分で出かけて行って手腕を振るうというのではなく、あくまでも板倉藩主の後ろ

盾になって、知恵を出し続けました。

大政奉還に関しても、建言書を作って板倉公に届けています。

山田方谷の考え方のベースになっているのは陽明学です。

陽明学の実践者として有名な河井継之助は、山田方谷に私淑をし弟子入りしています。

ですから山田方谷は教育者であり、哲学者であり、政治家であり、財政再建の手腕、軍人の要素・・・相当なものがあります。

私は、山田方谷は王陽明が実践した以上の能力を発揮したのではないかと感じています。

王陽明が主張した陽明学は、日本に入って来て花を開きました。

学問は学縁でつながっています。

私がお話ししていることは、陽明学という学問の歴史的な系統を一つずつ踏まえながら話をしておりますので、深澤賢治個人が一人で申し上げているわけではありません。

私は石川梅次郎先生に教えて戴きました。

石川梅次郎先生は、二松学舎の系図です。

二松学舎を創業したのは三島中洲で、三島中洲を教えたのは山田方谷です。

ですから山田方谷直系の陽明学を、私は皆様に申し上げているのです。

時間が少し余りましたので、「継続は力なり」・・・ずっと続けている事の素晴らしさを、悟道会がテーマに取り上げた為、改めて感じましたのでご紹介します

私は今、鉄砲洲神社で詩吟を習っています。

神社に入ると額が掲げてありまして、そこを必ず見て頭を下げて行くのですが、その言葉を申し上げます。

威張るな・・・威張ると神様に見放される。

欲張るな・・・欲張るほど金は逃げていく。

妬むな・・・他人を妬むと、友が離れる。

怒るな・・・腹を立てると、己を見失ってとんでもない目に会う。

毎週 1 回、詩吟の習いに行っていて見ているうちに、だんだんこの 4 つの言葉が入って来ました。

毎日毎日少しずつ見続ける、又は 1 週間に 1 回ずつその文章を思い出す、これを 10 年続ければ、大したものになります。

ちょうど時間でございます。

本日の講話を終了と致します。

有難うございました。